巻 頭 言

人を育てるということ

群馬県立小児医療センター　下　田　あい子

看護部長になり１年が過ぎた．この一年を振り返り，管理者としてかなり未熟であり，効果的でない行動や思考で動いているということに気づいた．師長の時は，周りを見て動いているつもりでいたが，今思うと看護本位の見方，考えを押し交渉していたと思う．もっと有効で容易な方法があったと実感している．自分の立ち位置が違うと全体の見え方が違ってくることもあらためて実感した１年であった．そして，今回管理という役割で，私を鍛えてくれているのが院長と事務局長であり，育ててもらった１年でもあった．

22年度は，看護部が力をつけるための人材育成に力を注ぎたいと考えている．まず，意識して「人を育てる」ことを看護部の課題として，看護部目標や教育計画に反映させる．病院の方針や方向性，医療の動向をふまえ３年後，５年後を見据え人材育成をしていきたいと計画している．まず，看護部としてどのような看護師を育てたいかを明確にして，伝えていくことを実践したい．私は「できることとできないこと」「今やるべきことと後でも良いこと」を判断し実行できる看護師，考える看護師を育成したいと考えている．自分の言葉で考えを伝えることができるように育てたいと思っている．一人一人の成長が元気な看護部を築き，質の高い看護の提供に繋がる．人は看護部の財産であり大切に育てたいと思う．

看護大学卒業の看護師の入職者も増え，専門性を追求する者も増えており，認定看護師，専門看護師，大学院への進学など積極的に希望する．今後病院においても，看護部の主導の人材育成計画だけでなく，個々のキャリアプランの実現に向け個人を支援することも重要となる．スタッフが活き活き働くために，スタッフと良好なコミュニケーションをとり，お互いを尊重しあう関係を築きたい．現在行われているクリニカルラダーでの面談は，スタッフが自分をアピールできる場にしたいと考えている．面談の中から，スタッフが自身の方向性を考えられ，目標が明確になることを期待している．スペシャリストとして，ジェネラリストとして，私たち看護師が仲間を育てていくのであり，私もともに育ててもらうのである．また，今年度から新人研修制度が義務化され，各病院での看護師の教育システムの構築が期待されている．当センターにおいても，新人教育，継続教育を再考し当センターに適した教育システムを再構築する必要があり，さっそく検討をはじめた．

今後当センターは，22年度にPICUを２床増床，23年度はNICUを３床増床し，その後GCUを整備する予定である．急性期の病院に変わっていく中で，看護師の育成は最優先されなければならない．看護部が一丸となって，自分たちの仲間を育て元気な看護部を目指したい．